

鹿児島市及び連携中枢都市圏3市の市民活動団体のご紹介



趣味のサッカークラブから始まり、現在は、運動を通じた介護予防事業を手がけるNPO法人アサヒナアソシエーション。多くのサッカー少年少女や高齢者の方々と交わりながら、少しずつ事業規模を拡大してきた。

これまでの事業展開、そしてNPOとして歩んできた道のりはどのようなものだったのか。創設者の出口 泉(でぐち・いずみ)さんに話を聞いた。

地域のサッカーチームからのスタート

任意のサッカークラブがアサヒナの始まりです。女子チームがなでしこリーグへ参入するにあたって、人材・資金・組織の拡大が必要となり、平成21年にNPO法人になりました。活動資金を得るため、企業からスポンサーを募ることにしたのですが、当時、鹿児島でスポーツクラブがスポンサーを付けるという概念はなく、我々が初めてだったのではないかと思います。

TOTO(サッカーくじなどを運営する「独立行政法人日本スポーツ振興センター」)の事業や県の特別ふるさと雇用基金などで介護事業が採択されたのをきっかけに、平成29年に高齢者向けの介護予防事業をスタートさせました。近所の方からの紹介やスーパーでの張り紙など地道な広報活動を行った結果、多い時は週に50名くらいの方が参加するまでになりました。

組織が活気づくのは「人」がいるから

サッカーチームは、3名からのスタートでメンバーを募集しながらコツコツ練習をする日々でしたが、地道に活動するうちに色々なつながりで人が人を呼び、90名ほどのチームになりました。

介護事業も最初は厳しかったです。地域の人に声をかけて回っても誰も来ない日もありました。それでも、続けるうちに協力してくれる人が現れ、少しずつ軌道に乗ってきました。今は、当時協力してくれたその方が利用者さんだったりします。恩返ししたい、という思いは強いです。いつまでも元気でいて欲しいと心の底から願っています。

ボランティアで関わる人への感謝と尊敬

私たちのチームの特徴は、犠牲心の強い職員が多いことです。犠牲心というのは、高齢者や子ども達への活動に理解があり、損得抜きに物事を考えてくれて、動いてくれるということ。好きや興味だけでなく、責任感が強いメンバーが多いです。また、活躍しているスタッフの大半が女性ということも私たちの特徴です。

主な仕事は高齢者への運動プログラムの指導ですが、子どもたちへのサッカー指導をボランティアでしているスタッフもいます。指導といっても当然別物ですが、その中でも通ずる部分や、応用できる部分はあります。ボランティアで子どもの指導を行うメンバーは、そういうメリットも感じながら頑張ってくれています。

また、自分のためになるというスタッフも多いですね。自分自身の成長のためということもありますし、何より子供達の元気な声や高齢者の方々の笑い声を聴くと元気になるとがんばっている方も多いです。

組織を超えた協働の在り方を

サッカーチームも介護施設も十人十色です。多様な人たちが主体者であることはいいのですが、限界があります。特に今は少子高齢化の時代。潰れるチームも施設も増えてくるでしょう。私たちとしては色々な組織とコラボしながらワンチームとして動いていきたい。しかし、介護福祉の業界は、他の組織とコラボするような文化はないように感じます。そもそも繋がれるようなネットワークもありませんし、そこはこれからの課題です。

また、介護保険の使い勝手が悪いことは、高齢者にとって、とても問題です。今まで健康保険と介護保険の併用ができたものが、できなくなってしまった。例えば、病院のリハビリは健康保険、自分たちが行っている介護予防の運動プログラムには介護保険がそれぞれ適用できていました。それが併用できないということで、どちらも利用している人は一方を選ばなければならなくなりました。これは、高齢者が関わるコミュニティが減ることに繋がるのです。

また、私たち事業者からすると、もっと地域の民間企業が介護福祉分野のスポンサーになってもらったり、人手不足を解消するようなコラボをしていきたいと思っています。そういう協働の形を地域で模索していきたいですね。

アサヒナアソシエーション 団体概要

<活動内容>

- ・鹿児島市内を中心に運動型通所介護サービスの運動指導
- ・真砂本町を拠点としたサッカーチームの運営
- ・運動を通じた介護予防事業
地域の公民館などで出張開催も行っている

<課題への取り組み>

公民館へ出向き、いろんな地区の老人会で体操教室などの出張を行なっている。
また、無料で簡易的な教室も行なっています。

- ▷名称：NPO法人 アサヒナアソシエーション
- ▷代表者名：出口 泉
- ▷会員数：約50名
- ▷主な事業：介護予防事業、公共職業訓練校の運営、
サッカークラブ・スクールの運営
- ▷連絡先：099-258-4903

<今後の展望>

平日の昼間にたくさん的高齢者が来て、笑い声が響いている場をつくりたい。
また、民生委員の方々と協力して、高齢者の見守り活動を行いたい。
スポーツをしている人や、スポーツに関わりたい人たちと繋がり、一緒の空間で何かを始めたい。

